〒602-8580 京都市上京区新町上立売西入ル西大路町 61-1
TEL075-251-3185　© 同志社大学体育会機関紙
Doshisha Sports アトム
令和６年（2024）
10/01 火曜日
http://doshisha-atom.net/
夏季結果号
発行人　渡邉凌太郎
編集人　浅川明日香

力戦奮闘し新たな歴史刻む

共に信じ絆で掴んだ優勝

同志社アトムボート部軽量級女子ペア 清水彩・東野



ハイタッチを交わす左・東野、清水彩
【切り込み写真】
トロフィーを手にする
（写真・ボート部提供）

東野花（ひがしの・はな）
２００５年３月９日生まれ。福井県立若狭東高校出身。１５９㌢。スポーツ健康科学部２年。

清水彩夏（しみず・さやか）
２００２年９月３日生まれ。山梨県立吉田高校出身。１６４㌢。社会学部４年。

「落ち着いて淡々と漕いでいた」（清水彩）

雪辱果たす

◆6月20・22日◆第102回全日本ローイング選手権大会◆於・海の森水上競技場（東京都）
◆清水彩・東野ペアが軽量級女子ペアで悲願の全国優勝を果たした。昨年の悔しさを晴らすべく、挑んだ今大会。予選を組1着で通過し、順調にA決勝進出を決めた。A決勝では緊迫した空気が漂う中、勝負強さを発揮し徐々に他大を突き放す。最後までリードを守り抜き、立大と約7秒差をつけてフィニッシュ。笑顔でハイタッチを交わし、喜びを分かち合った。

命に練習を重ねてきた。日々の努力が実り、4月末に行われた西日本選手権では圧倒的な強さを示し優勝。日本一に向け、確かな自信を手にした。しかし「体が上下に揺れて重心が高く、焦り気味でこいでしまった」（清水彩）と課題も露呈。約2カ月間、持ち前の修正力を生かし克服に努めた。今大会は軽量級女子ペアとして万全の状態で出場。「とにかく優勝することしか考えていなかった」（清水彩）。悲願の全国制覇にうれし涙を流した。

ついに歓喜の瞬間が訪れた。昨年、軽量級女子ダブルスカルで準優勝を獲得した清水彩・東野ペア。あと一歩頂点に届かず、無念の敗北を味わう。それからリベンジを果たすべく、懸

王座に君臨

大会初日の予選は立大と一騎打ちの展開となった。ほとんど横並びの状態でスタートするも、息の合ったストロークで徐々に艇速を上げていく。そのまま大きくリードを広げ、7分58秒78で堂々の1位を奪取。実力を見せつけ、理想的な形でA決勝へつないだ。

迎えた3日目の決勝戦。試合会場には多くのOB・OGも詰めかけ、発艇するクルーを盛大なエールで送り出した。「変なことをしないように、いつも通り落ち着いたレースをすれば勝てる」（東野）。緊張感が漂う中、レース開始の合図と同時に6大学が一斉にスタートした。勝負強さを武器とする2人は、序盤から攻めの姿勢で首位をキープ。他を寄せ付けない圧巻のこぎで周囲を圧倒した。しかし、中盤から立大の猛追を受ける。東野がタイミングを見計らい、後方から「大丈夫、いける」と清水彩を鼓舞。仲間の願いが込められたオールはさらに艇のスピードを加速させた。残り500㍍地点、ラストスパートをかける他大を振り切り1着でフィニッシュ。予選をはるかに上回る7分52秒13を記録し、初の日本一に輝く。最後まで死力を尽くし戦った彼女たちに、称賛の拍手が送られた。

見据える先

完璧なレースプランで栄冠をつかみ取った。4年生の清水彩にとって、今年は大学生活最後の1年。「入部してからずっと日本一を目指してきた」（清水彩）。練習の成果が発揮できず苦しんだ日々も、衣食住を共にしたチームメートに支えられ乗り越えてきた。「一緒に戦っている感じがして、とても心強かった」（清水彩）。大きな歓声に包まれながら、念願の金メダルを手に万感の表情を浮かべる。4年間、積み上げてきた努力が報われた瞬間だった。

その後行われたインカレでは落合、三苫（社1）も加わり女子クォドルプルとして出場。再び白熱したレースを繰り広げ、優勝を成し遂げた。「同志社大学に来て本当に良かった」（清水彩）。学生生活最後の試合で輝かしい功績を残し、有終の美を飾った。【中務桜々子】

◆軽量級女子ペアA決勝順位表◆

順	大学名	タイム
①	同志社	7:52.13
②	立　大	7:59.35
③	法　大	7:59.60
④	早　大	8:04.27
⑤	龍谷大	8:19.26
⑥	一橋大	8:40.43

清水彩・東野ペア 1年間の戦績



2023年 2 5/18～5/20 全日本選手権 @海の森水上競技場



2024年 1 4/27・4/28 西日本選手権 @大阪府立漕艇センター



2024年 1 6/20・6/22 全日本選手権 @海の森水上競技場

ボート競技とは？

2000㍍の直線コースを進行方向に背を向けて船艇をこぎ、着順を競う。種目は競技で使用するオールが2本のスカルと1本のスウィープに分けられる。特にダブルスカルとスウィープの一種であるペアは、2人の漕手の一糸乱れぬチームワークが重要だ。天候に左右されやすいため、高度なテクニックを駆使しながら全速力で水上を駆け抜ける。

接戦制し関西制覇遂げた

◆7月6・7日◆2024年度関西選手権競漕大会◆於・大阪府立漕艇センター

女子ダブルスカルに出場した児嶋・落合ペア。日頃の練習の成果を存分に発揮し、関西優勝を果たした。

予選では1000㍍地点まで関学大Aと一艇身ほど距離を取り先頭を守る。しかし怒涛（どとう）の追い上げを振り切れず3位に転落。その後トップに差をつけられたが、再起を図り2位で逃げ切った。

A決勝では序盤から関西みらい銀行と上位争いを繰り広げるも、息の合ったストロークで相手を上回り頭を取る。同志社に続く関学大Aと関西みらい銀行のプレッシャーを受けながらもリードを死守。逆風が吹く厳しい場面を乗り越え1着でゴールした。

「中盤から後半にかけてペースが落ちてしまうのが課題」（児嶋）。落合の集大成となるインカレに向けて、改善点を模索する絶好の機会となった。

▲ボートをこぐ左・児嶋（スポ3）、落合（GR4）

夏炉冬扇

▼いつの間にか空っぽだった。何事も人並みにできた幼少期。勉強も習い事もむしゃらに取り組まなくとも、ある程度の成績を出せる。しかし、いつしかそうはいかなくなった。求められるハードルが上がっていくスピードについていけない。目標に到達するまでに費やすであろう時間と道のりの険しさを想像しおじけづいた。道の途中で逃げ続けた結果、残ったのは武器のない自分だった▼第106回全国高校野球選手権大会。毎年ドラマが生まれるあの場所から「大社旋風」が日本中を駆け巡った。32年ぶりに出場した島根県代表の大社高校。下馬評を覆し強豪校を次々と撃破する姿に人々は熱狂した。対早稲田実業高校戦の延長11回、表の守備を無失点で抑えると選手たちを集めた石飛監督。「ここでバントを決められる自信がある者、手を挙げろ」。その声に手を挙げたのは、唯一県大会から出場がなかった安松だった。打席に入ると、2球目を三塁線に転がし内野安打に。無死満塁の好機となり、続く馬庭のサヨナラをお膳立てした。出場機会に恵まれず、悔しい思いをしただろう。それでも目標をぶらさず、バント練習を人一倍やってきた安松だからこそ引き寄せられた勝利だった▼学生記者を引退する時が近づいている。カメラとノート、筆記用具を手に多くの選手たちを追いかけてきた。彼らの懸命な姿と熱いまなざしに胸を打たれ、文字につづった日々。思いを言葉に乗せられず投げ出した時の後悔は消えない。それでも残りわずかな時間で、掲げた目標を達成するための努力をしよう。私は今の自分からも逃げない。【河場真世】

レイアウト　沼野　涼音

2面 水泳他
3面 空手道他
4面 体育会飯
5面 バディ特集
裏面 ソフト女子



紙器用板紙全般
DAIWA ITAGAKI
大和板紙株式会社
代表取締役社長
北　村　貴　則
（平成５年度商学部卒業）
本社工場　〒582-0004 大阪府柏原市河原町5-32
電話　柏原（0729）71-1445 代表
FAX（0729）71-1449

YOUNG RESORT
株式会社 ヤングリゾート
＃大会遠征 ＃サークル合宿 ＃アパレル
＃お揃いウェア ＃ArcheryTag ＃キンボール
＃ヤンフェス ＃就職活動支援 ＃大学生
合宿・ゼミ旅行など是非お問い合わせください！



強き誇示し記録打ち立てた 水泳部

向かうところ敵なし 栄冠旋風

◆8月2～4日◆第98回関西学生選手権水泳競技大会◆於・京都アクアリーナ◆持ち前の高いチーム力を存分に発揮した。リレーでは若手選手の活躍が光り、男女5種目で高順位をマーク。個人競技では渡会（スポ4）が女子100㍍背泳ぎで4年連続の優勝を果たす。また、藤本も女子100㍍バタフライで2年連続のダブル制覇を成し遂げた。執念を燃やした戦いを経てより一層たくましくなった彼らは、来年もこの舞台で気迫の泳ぎを披露する。



◆藤本穏

（ふじもと・やすき）
2004年12月17日生まれ。大阪府・四條畷学園高校出身。専門種目はバタフライ。158㌢。スポーツ健康科学部2年。

首位を独走する藤本【切り込み写真】手を振る（撮影・浅川明日香）

闘紫燃やす

同志社の強みである結束力を武器に、リレーで堂々の泳ぎを披露。全リレー6種目中男女5種目で強豪近大に次ぐ2位を記録した。アンカー同士の熾烈（しれつ）な競争により順位を上げた試合は大いに盛り上がり、メンバーからは渾身（こんしん）のガッツポーズが飛び出す。どんな結果でも互いの健闘をたたえ合い、団結力を高めた選手たち。チームスローガンである『闘紫』を燃やした戦いは彼らを大きく成長させた。

栄冠つかむ

個人競技においても熱戦が繰り広げられた。昨年に続き女子100㍍バタフライと女子200㍍バタフライの2冠を狙う藤本は、関西の舞台に意気揚々と姿を現した。「インカレ前にしっかり自信を付けられるような大会にしたい」と思っていた（藤本）。女子200㍍バタフライでは2番手に2秒以上の差をつけフィニッシュし、2年連続2種目で栄冠をつかむ。しかしゴール後の藤本は悔しげな表情を浮かべた。「優勝できた面では良かったが、タイムの面では悔しい点しかない」（藤本）。関西チャンピオンである彼女は既にインカレというさらなる高みを見据え、自身を奮起させていた。

また渡会は初日の女子200㍍背泳ぎに登場。スタートから芝（近大）と拮抗（きっこう）したレースを展開した。ラスト50㍍で0秒77差があったものの終盤に追い上げ、ゴールタッチはほとんど同時。一時は電光掲示板に渡会が1位と表示された。しかし、正式記録では相手のライトタッチが認められ0秒02差で2位に転落。「イレギュラーな形になったが、100㍍背泳ぎは何がなんでも勝ってやろう」（渡会）とリベンジを誓った。

迎えた最終日の女子100㍍背泳ぎ。序盤からハイペースをキープし、2番手を0秒81引き離しゴールする。4年連続で優勝を成し遂げ、王者の座を守り抜いた。また同2種目に白石（理工4）も出場し、両レースで銅メダルを獲得。4年間苦楽を共にしてきた渡会と一緒に表彰台入りの夢をかなえ、はじけるような笑顔があふれ出た。

飛躍遂げろ

個人種目では男女5人が9つのメダルを受賞し、女子は総合で準優勝に上り詰める。また配点が倍となるリレーを得点源に点数を伸ばした男子は4位という好成績を収めた。「チーム力という意味でも成長を実感できた試合だった（橋本響・政策4）。カンカレを通してさらに一体感を増した彼らは今後も水泳界に旋風を巻き起こす。【近藤真子】

◆女子1部順位表◆

順	大学名	スコア
①	近　大	197
②	同志社	108
③	関　大	107
④	武庫川女大	98

◆男子1部順位表◆

順	大学名	スコア
①	近　大	292
②	大体大	105
③	関学大	89
④	同志社	71

終盤猛追し悲願の銀メダル獲得

男子が800㍍フリーリレーで目標以上の準優勝を達成。表彰台でメダルとともに笑顔を輝かせた。

初日に行われた400㍍フリーリレーからメンバー構成を変更。エース・長島（経3）を筆頭に説田（商4）、洲崎（経1）、根倉（スポ2）で挑んだ。「他大学よりもみんなのリレーに対する気持ちが強かった」（説田）。競技開始後、部員の大きな声援を背にバトンをつなぐ。3位で最終泳者を任された根倉が力強い泳ぎで2位に浮上すると、そのまま順位を保ちフィニッシュ。「思いがけない2位だったのでうれしかった」（説田）と驚きを見せながらも、確かな成果を残した。

学年の垣根を越えたチームで好成績を収め、団結力と選手層の厚さを示した。新体制でも頂点への執念を燃やし、全員が己の限界を突き進む。


▲ポーズを決める選手たち

ソフトテニス部

◆7月6日◆令和6年西日本大学対抗ソフトテニス選手権大会◆男子部大学対抗戦◆於・NTN総合運動公園テニスコート（三重県）

準決勝の対戦校は春に下した関西外大。大原（経4）・清水（商1）ペアは幾度もデュースで粘るが、ラリーをものにできず連続でセットを落とした。後がなくなり反撃を試みるも、G（ゲームカウント）1―4で敗北。長根（スポ2）・沼尾（文情4）ペアは見事なボレーとスマッシュを披露し白星を挙げ、1勝1敗で第3戦へ。林・雑賀（スポ4）ペアが1セットを奪うも、鋭いコースを狙われG1―4で敗戦した。

実力者がそろう舞台では正念場で勝ち切る強さが求められる。ラケットから放つ一球に魂を込め、団体戦で周りを圧倒せよ。

「相手に勢いと流れを持っていかれた」（林・社4）。総力を挙げて挑むも、昨年同様3位で幕を下ろした。

◆男子順位表◆

順	大学名	振回
①	福岡大	
②	関西外大	
③	同志社	
〃	関学大	

王者の威厳保つ

女子400㍍個人メドレー昨年学生王者の梶本（スポ3）が同種目に出場。自身最速の更新はできなかったが、優勝をつかんだ。

スタートから圧巻の泳ぎを披露し、ベストタイムを約0・5秒上回る勢いで200㍍地点を通過する。しかし最後の泳法である自由形で失速。3月の国際大会代表選手選考会で塗り替えた自己ベストに0・13秒迫る4分40秒68でゴールした。それでも2位に大差をつけて大会新記録を樹立。「新たなタイムは出せなかったが、納得のいくレースはできた」。自身のレースを振り返り、満足げな表情を浮かべた。

周囲を寄せ付けず、堂々たる成果を収めた梶本。持ち前の勝負強さを生かしつつ課題であるスピード持久力を強化し、これまでの自分を超えていく。

フィギュアスケート部

◆8月10・12日◆サマーカップ2024フィギュアスケート競技会◆選手権男子◆於・木下カンセーアイスアリーナ（滋賀県）

今季シニアデビューした中村俊（商1）が観客を魅了し、3位入賞を果たした。

SP（ショートプログラム）ではミスが響き、4位にとどまる。「まとまった演技をしたい」と意気込み、FS（フリースケーティング）に臨んだ。見せ場である1本目の4回転トループは転倒。しかしすぐに立て直し、次のトリプルアクセル―トリプルトループの連続ジャンプを鮮やかに着氷した。その後もジャンプを次々と成功させ、FS1位の得点をマーク。ハイレベルな戦いの中、3位に輝いた。

シニアでも戦える実力を示した中村俊。今年は全日本選手権で上位に入ることを目指し厳しい練習に明け暮れている。新たな舞台でも指先までこだわり抜き、氷上で舞う。

◆選手権男子順位表◆

順	名前	所属	得点
1	友野一希	上野スケートクラブ	213.09
2	壺井達也	シスメックス	211.31
3	中村俊介	木下アカデミー	208.45

舞台裏の英雄 NO.3


ボールを投げる中山

ソフトボール部男子

マネジャー
中山あゆみ
（なかやま・あゆみ）
2002年4月26日生まれ。群馬県・新島学園高校出身。156㌢。同志社女子大学4年。

捧げた10年間

中山は仲間とのコミュニケーションを最も大切にしていた。明るい性格で学年の垣根を越えた信頼関係を構築。「選手とできるだけ多くの会話を交わすことを心掛けている」。どのようなときでも仲間に寄り添い、ささいな会話で選手の本音を引き出した。

仕事内容は練習時の動画撮影やバット引き、ジャグ作りなど多種多様。プレーヤーが楽しくソフトボールに熱中できるよう、全力を注いだ。

中学1年時から10年間続けていたマネジャー生活は幕を閉じた。「選手だけでなく、監督や親御さんにありがとうと言ってもらえることが自分のやりがいであり、モチベーションになっている」。多くの人から掛けられる感謝の言葉を原動力に仲間の背中を押した。献身的に支えた彼女は部にとって必要不可欠な存在であったに違いない。

ゴルフ部男子

◆6月19～21日◆第61回全国大学ゴルフ対抗戦◆於・苫小牧ゴルフリゾート72エミナゴルフクラブ（北海道）

前年に比べ成績を伸ばし、最終7位で今大会は終幕した。1日目は慣れない環境下のスタートで出遅れ、11位でラウンドを回る。しかし、翌日から快進撃を展開。主将・西山（生命4）がアンダーパーをたたき出し、下級生をけん引した。質の高いパフォーマンスで上位に数打差まで追い付き、迎えた最終日。日々の練習で磨き上げた持ち前の決定力を存分に出し切った。

6人でラウンドを戦い抜いた3日間。「1日目の後半で大きく崩してしまった」（ゴヴォロヴスキー・商1）と、好記録が期待されたばかりに初日の結果が悔やまれる。浮き彫りになった課題を改善し、11月に開催される常陸宮杯で上位入賞を目指す。

◆男子順位表◆

順	大学名	スコア
①	早　大	833
②	東北福祉大	835
③	日　大	845
④	近　大	854
⑤	日体大	855
⑥	中部学院大	859
⑦	同志社	860

柔道部 外村

夢舞台へ全力注ぐ

◆8月18日◆関西学生柔道体重別選手権大会（男子43回）◆73㌔級◆於・大浜だいしんアリーナ（大阪府）

外村が獅子奮迅の活躍で3位に入賞した。大学1年時からベスト16で止まっていた3年間。「絶対に勝って全国にいく」と強い意志を持って今大会に臨んだ。

初戦は強豪天理大の前田と対戦。延長戦までもつれ込むも、一本背負いで勝ち進む。2回戦も互角の勝負となったが、3つの指導を引き出し勝利した。3回戦は開始約30秒で技ありを取得。さらに逆一本背負いで一本勝ちを収めた。勝てば全国が決まる運命の4回戦は、約1分間と短時間で圧勝。背負い投げと大内刈りの合わせ技一本で、難なく大舞台への場権を手にした。しかし外村の戦いはここで終わらない。これまで3連敗している大教大の宮下との準々決勝。延長戦に突入する接戦となったが、一本背負いで因縁の相手を打ち破った。

準決勝では一本負けを喫したものの、3位という好成績を残した。今月待ち受ける全日本学生柔道体重別選手権大会での目標はベスト4。有言実行を果たすべく、闘魂をみなぎらせる。

◆男子73㌔級戦績◆

試合	対戦相手	学校名	結
1回戦	前田慎太郎	天理大	勝
2回戦	新本　慶	近　大	勝
3回戦	広原綾人	福岡大	勝
4回戦	佐々木洋将	日体大	勝
準々決勝	宮下真八	大教大	勝
準決勝	小幡礼希	天理大	敗


相手と組み合う外村

外村宗太

（とのむら・そうた）
2003年3月19日生まれ。大阪府・上宮高校出身。得意技は一本背負い投げ。170㌢・73㌔。政策学部4年。

follow us on Instagram
公式アカウントはこちら！！
@atom_doshisha

ビラアカウントもございます！
@atom_doshisha_

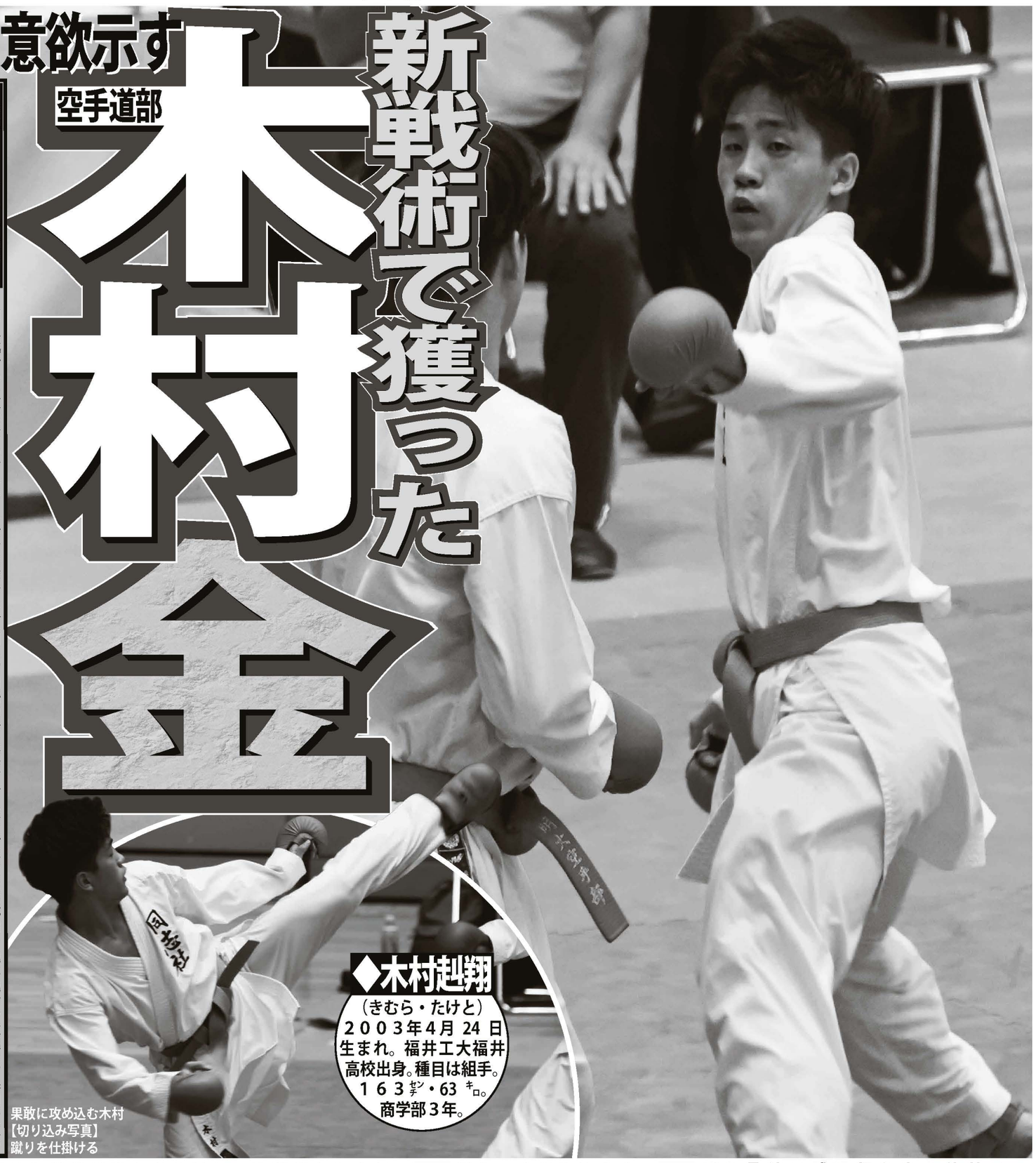
@atom_doshisha
随時更新中！同志社の“なう”をつぶやきます！
企画 速報 号外

定期購読受付中!!
お申込みはこちらから▶▶
https://doshisha-atom.net/subscribe/
年間購読料　￥2,000
年6回発行！
ご自宅まで配送いたします！

レイアウト　駒嶺　錬

新戦術で獲った 木村金

連覇に意欲示す 空手道部



果敢に攻め込む木村【切り込み写真】蹴りを仕掛ける

◆木村起翔
（きむら・たけと）
2003年4月24日生まれ。福井工大福井高校出身。種目は組手。163㌢・63㌔。商学部3年。

◆7月6・7日◆第68回全日本学生空手道選手権大会◆於・ヴィクトリーナ・ウインク体育館（兵庫県）◆関西に集った強敵に立ち向かい、己を貫き優勝をつかんだ。これまでも小柄な体格ながら果敢に大舞台で戦い抜いてきた木村。過去の惜敗から練習を重ね、勝利を量産した。詰めすぎない間合いを武器に初めての戦法を取り入れ、決勝に進出。最終戦ラスト1分に隙を突いた中段蹴りで大きく点差を広げ、悲願の頂に立った。

栄光

最終戦を前に熱狂が渦巻く。両選手の登場とともに静まり返ったコートで試合は開始。爽快なステップで猛攻を仕掛けた。しかし上段突きが有効となり、得点を献上。すぐさま突きを繰り出し、同点へと持ち込む。さらに中段蹴りを成功させ、3―1で全国制覇を成し遂げた。

邁進

男子個人組手に出場した木村は初戦から奮闘。敵の動きを見切ると正確な攻撃を展開し、3―0で通過した。冷静な判断と鋭い突きを武器に3連勝を挙げる。準々決勝では苦戦したものの3―1で判定勝ちとなり、着々とトーナメント上位へ上り詰めた。迎えた準決勝では比較的小柄な木村に対し、体格の大きな慶大の岩本と対戦。中盤まで得点は動かず、互いににらみ合う。間合いを維持しつつ、一歩も譲らない攻防戦に観客の興奮は高まった。スコアで決着がつかず勝敗は再び判定に委ねられる。「要所要所でしっかり攻めを怠らなかったのが（判定の）勝因」。3―1で制勝し、正面勝負にこだわらない新スタイルで決勝の舞台に駒を進めた。

センターコートに集まる注目。歓声に包まれる中、木村が入場した。相対するのは明大の佐竹。序盤から軽やかな足さばきで素早く懐へ潜り込んだ。開始1分で佐竹の上段突きが決まり先制点を奪われる。それでも敵との間合いを保ち、見切ったタイミングで攻めるスタイルを徹底。先制点を取られた分、絶対に取りにいく」。序盤から積極的に動き、自分以外のペースにのみ込まれぬよう蹴りをけん制。上段突きを入れて同点に立て直すと、残り1分でも焦りを見せず仕掛ける。コートを広く使う戦術を用いて中段蹴りを成功させ、3―1と点差を広げた。残り30秒を切っても攻撃の手を止める事なく佐竹を翻弄（ほんろう）し、終了のブザーとともにこぼれた満面の笑み。今後の展望について「初めてのスタイルを貫き、勝利を増やしていきたい」と力強く語った。厳しい鍛錬に励み、学生王者に輝いた木村。優勝を果たし、次なる目標を目指す姿に期待が高まる。【倉田蓮大】

新生

白熱するプレーを繰り広げた闘いでの表情と打って変わり、終了のブザーとともにこぼれた満面の笑み。今後の展望について「初めてのスタイルを貫き、勝利を増やしていきたい」と力強く語った。厳しい鍛錬に励み、学生王者に輝いた木村。優勝を果たし、次なる目標を目指す姿に期待が高まる。【倉田蓮大】

王座目前で惜敗喫す

個人戦での大会連覇を狙い、細部にわたり調整を加えてきた釜（スポ3）。悔しくも優勝を逃し、再び世界一への決意を固めた。

緊張感が漂う中、笑顔で決勝戦に臨んだ。同じく68㌔級全日本強化選手に選ばれている寺澤（中部学院大）との対戦。互いに手の内が明らかな状況下のため、いつも以上に慎重に立ち回る。開始30秒に腹部への蹴りを抑え、鋭い上段突きで先制点を獲得した。しかし、この1点が敵の闘争心に火を付ける。絶え間ない猛攻を受け、焦った表情を見せる釜。その瞬間、3点技の上段蹴りで痛恨の一本を食らった。「落ち着いて」と仲間からの声援が響き渡る。試合終了間際に渾身（こんしん）の上段突きを決めたものの、相手の中段突きで再度点差が開き絶体絶命の状況に。勝利を収めるには大技で一本を奪うことが必須条件だったが、鉄壁の守りを崩すことはかなわなかった。

「目標は世界一」。念願であった2度目の日本一まであと一歩届かなかったが、目指す場所は変わらない。この悔しさを胸に刻み、自らの突きで世界王者に君臨する。

ボウリング部

◆4月14日～6月23日◆第63回関西学生春季リーグ戦◆於・MKボウル上賀茂（京都府）他

昨秋に続き、他大学を圧倒するプレーで関西の頂点に君臨。新体制として初めての舞台で快挙を成し遂げた。

暫定1位を死守するべく正念場となった第7週の対近大戦。「全部勝てるようにチームに貢献できるスコアを出したい」（渡辺）と闘志を燃やして挑んだ。順調な滑り出しとは言えなかったが、スペアで得点を稼いで軌道に乗る。大差をつけて試合を制した。

「過去の勝ち点は気にせず、全勝を目指して頑張る」（石本・スポ3）。第9週目の京産大との一戦で勝負強さが光った。戸塚（商2）が合計9度のストライクで流れを一気につかみ、その後も観客を魅了する巧みな技術を見せ快勝。あと1週を残してリーグ優勝が決定した。トータルスコア12484ピンで2季連続王者の座を守り抜き終幕。中でもルーキーの渡辺が存在感を示し、個人賞を独占した。

新たなメンバーと戦術で再び栄冠を手にした女子部。見据える先にあるのは全日本大学選手権3連覇だ。日本中に関西王者の貫禄を見せつけるべく全力投球する。



笑顔を見せる渡辺

圧巻の完勝

◆渡辺希哩
（わたなべ・きり）
2005年8月31日生まれ。群馬県・前橋市立前橋高校出身。157㌢。スポーツ健康科学部1年。

◆女子団体順位表◆

順	大学名	総得点
①	同志社	12484
②	京産大	10591
③	佛教大	10461
④	近　大	8347

ヨット部

◆6月29・30日◆令和6年度近畿北陸学生ヨット選手権個人戦◆於・滋賀県立柳が崎ヨットハーバー

微風の影響でレース数が少なく、通常とは異なる形となった個人戦予選。スナイプ級よりもスピードが出やすい470級で同志社が上位に名を連ねた。

全体2位でフィニッシュしたのは谷（スポ1）・白數（スポ4）ペア。ヘルムスマンを務めた谷は「とにかく予選通過することが第一目標」と意気込んだ。スタートダッシュに成功すると盤石なレース運びを展開する。白數とコミュニケーションをうまく取りながら、息の合った連係でゴール。期待のルーキーは「まだまだ弱い部分があるのでそこをきっちりと修正していきたい」（谷）と先を見据えた。

今大会では多くの選手が活躍し、高い総合力を発揮。長い歴史を持つヨット部はさらなる成長を求めて今日も水上を走り続ける。

◆個人戦国際470級◆

順	名前	大学名	得点
①	山本・前谷	立命大	7
②	谷・白數	同志社	12
③	小菅・向井	同志社	15

強固な基盤築き3位入賞収める

洋弓部女子



弓を引く林

林若奈
（はやし・わかな）
2005年10月24日生まれ。岡山県立倉敷天城高校出身。164㌢。スポーツ健康科学部1年。

◆男子個人組手決勝トーナメント◆

古川陽大（日体大）
佐竹　隼（明　大）
吉田　楽（大産大）
梅津　琉（日体大）
辻野智基（龍谷大）
岩本　遼（慶　大）
海野陽乃汰（明　大）
木村起翔（同志社）

「風を味方につけられた」（林）

◆6月15・16日◆第59回全日本学生アーチェリー女子王座決定戦◆於・つま恋リゾート彩の郷第1多目的広場（静岡県）

「今年こそ優勝する」（鈴木・スポ2）。昨年の王座決定戦で準優勝に終わった悔しさを胸に、鍛錬を重ねてきた選手たち。しかし、近大にあと一歩及ばず3位で幕を閉じた。

前日の予選R（ラウンド）を2位で通過し、挑んだ決勝R。甲南女大と慶大を倒し、セミファイナルで近大と対峙（たいじ）した。近大は春季リーグ戦の決勝戦で敗れた因縁の相手。3人全員が10点を射抜く完璧なショットを披露し、初回は55点の高得点で2ポイントを先取する。幸先の良いスタートを切るも、5点差で2セット目を献上。続く2セットもわずか1点差で落とし、敗北を喫した。

3位決定戦では龍谷大と対戦。1セット目は関根（スポ3）が連続で9点を記録した。また林が放った矢は中心円を捉え、大差をつけて2ポイントを獲得。次のセットで同点となるも、最後は全員が9点以上の安定した行射で勝利をつかんだ。

若手の実力とチームの団結力が存分に発揮された今大会。「長い歴史を持つチームを受け継いで、また1年間頑張りたい」（関根）。王座優勝の夢は次世代に託された。

◆セミファイナル◆

	近大		同志社	
／	総得点	ポイント	総得点	ポイント
1	54	0	55	2
2	54	2	49	0
3	53	2	52	0
4	55	2	54	0
／	6―2			

◆3位決定戦◆

	龍谷大		同志社	
／	総得点	ポイント	総得点	ポイント
1	46	0	51	2
2	48	1	48	1
3	49	0	55	2
／	1―5			

アイスホッケー部

◆6月20・23日◆第73回関西学生氷上競技選手権大会◆於・関西大学たかつきアイスアリーナ（大阪府）

新体制で戦ったリーグ戦。最終戦で宿敵に対し点差を縮められず、準優勝で終幕した。

ゲームは序盤から関大ペースで進行する。開始2分にファールで優位な展開に持ち込むも、流れに乗れず無得点。3点を先制され第1ピリオドを終えた。

第2ピリオドではいきなり追加点を許し0―4とされるも、同志社に好機が訪れる。辨野（法3）が味方のアシストにうまく合わせて1点を返した。しかしその後は再三のチャンスを生かすことができずさらにリードを広げられる。1―6まで引き離され、ファイナルホイッスルが鳴り響いた。

「優勝したかったから悔しい」（水橋・商4）。悲願達成とはならなかったが、秋季リーグ戦で王座を奪うべく長年のライバル関大に立ち向かう。

◆決勝リーグ順位表◆

順	大学名
①	関　大
②	同志社
③	立命大
④	関学大

レスリング部

◆7月13・14日◆令和6年度西日本学生レスリング新人選手権大会◆於・堺市金岡公園体育館（大阪府）

安渡（理工2）が新人戦2連覇を果たした。筋力トレーニングに注力しながら、約1カ月で7㌔の減量を終えて臨んだ今大会。長い手足を駆使して繰り広げる技の数々でポイントを連取し、危なげなく勝利を重ねた。

迎えた由井（近大）との決勝戦。両者一歩も譲らぬ均衡状態の中、積極的な攻めが奏功し先つでにより流れをた。パッシブに制点を挙げ、流れをくる。片足タックルで相手をマットに押さえつけ、最後までポイント差を守り抜いた。

金メダルを手にし、「気を抜かずに次戦に向けて準備したい」と意気込んだ安渡。彼の活躍はチームに大きな刺激を与えている。同志社レスリング部の今後に注目だ。

◆フリースタイル57㌔級決勝トーナメント◆

安渡　翔（同志社）
半田　智（九州共立大）
眼鳥皓博朗（日本文理大）
高橋海斗（立命大）
沖田光晴（関西学大）
東　伊織（日本文理大）
水谷圭吾（関学大）
由井康太郎（近　大）

同志社スポーツユニオン
体育会51クラブのOB・OGから組織されています
同志社スポーツユニオンは同志社アスリートを支援、応援致します！
http://www.doshisha-su.com/
○ウェブサイトを通じて同志社スポーツを応援しましょう！
○新年度　ウェブサポーター　募集中！
お申込み・お問い合わせ
〒610-0394
京田辺市多々羅都谷1-3
同志社スポーツユニオン事務局
TEL：0774-65-7418　FAX：0774-65-7416
E-Mail：jt-1spor@mail.doshisha.ac.jp

トレーニング　必勝祈願
＃努力は裏切らない　＃プライド　＃負けず嫌い　＃全力応援
＃ハードワーク　＃共に戦う
＃基礎の大切さ　＃意地と情熱
伝統の一戦
＃一致団結　＃モチベアップ　＃全員主役
キャンプ　＃チームビルディング　＃長年のライバル
オリジナルTシャツ制作
あらゆるスポーツシーンに対応
STAR FORM
06-6147-3037 / info@starform.jp

同志社から一番近い教習所です！
京田辺校地
※昭文社京都府地図より
秋から新車になりました！
オンライン学科実施中!!
自宅でスマートフォンで受講できます
山城田辺自動車学校
〒610-0322京都府京田辺市普賢寺中島4-9
TEL 0774-63-6600

レイアウト　益野　瑛真

ごはんは元気の源 体育会飯

毎日厳しい練習に励む体育会学生にとって、食を楽しむ時間は至福のひとときだ。本号では、忙しい日々を送る彼らの食生活の実態に迫った。

自転車競技部



さしみ・たきこみごはん



- 魚
- にんじん
- えのき
- 油あげ

こだわりは醤油

前田大騎（まえだ・だいき）
２００２年11月８日生まれ。熊本県・九州学院高校出身。得意料理は魚の煮付け。商学部４年。

高校生活が終わりに近づいていた２０２０年。当時は部活動に集中するため寮で暮らしていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により帰省を余儀なくされる。実家に戻り、余暇にキッチンに立ったことがきっかけで自炊の魅力に取りつかれた。現在では一日の大半の食事を自分で賄っており、時には共に汗を流す他の部員たちにも手料理を振る舞う。味は好評で「絶品です」（二村・文情２）との声も上がるほどだ。

前田のおはこ料理は、魚の煮付け。「甘めのしょうゆを使ったり砂糖を多めに入れたりして、水を多く入れないのがポイント」。九州出身ということもあり、お気に入りのメーカーが存在するほどしょうゆに対してこだわりが強い。魚をさばく技術を独学で身に付けるなど、自転車競技だけでなく料理においても努力して腕を磨いてきた。また日々の食生活がプレーを左右するため、カロリーなど細部にも妥協は許さない。そうした細かな気配りが練習にも生かされている。

インカレを終え、大学競技生活も終盤に差しかかった。残りわずかな時間も自炊パワーで走り抜ける。

愛情たっぷり皆の原動力 ヨット部



吹上綾菜（ふきあげ・あやな）
２００２年11月26日生まれ。京都聖母学院高校出身。得意料理はジャーマンポテト。同志社女子大学４年。

藪内捺希（やぶうち・なつき）
２００２年５月26日生まれ。大阪府・賢明学院高校出身。得意料理はチヂミ。同志社女子大学４年。

選手のためにご飯を作るマネジャー。毎週自分たちでメニューを考案し、多いときは50人分の買い出しを行う。１時間以内に皆を元気づけるごちそうを準備しなければならないため、少ない人数で力を合わせる。「栄養バランスが偏らないように考えるのが大変」（吹上）。そんな中でも仕事をこなせるのは「おいしかった」「ありがとう」という感謝の言葉をもらえるからだ。やりがいを感じながら、さらにプレーヤーに寄り添えるよう尽力している。

マネジャーの手料理は、体力回復や練習のモチベーションにもなる。しかし、全員が元から料理を得意としていたわけではない。包丁の扱い方さえ知らない人もいたが、毎日キッチンに立つことで腕を磨いた。

部の運営のために周りから見えないところでも絶えず奮闘し、体力的にも精神的にもサポート。選手と同じ熱量を抱き、共に戦う気持ちを忘れない。今後も部員を一番近くで支え、チームにとって欠かせない存在であり続ける。

プルコギどん

- にんじん
- 豚肉
- 玉ねぎ
- ピーマン



輝く菓子職人 ラクロス部女子

いちごタルト

- いちご
- 卵
- 牛乳
- バター
- 小麦粉



福井友理（ふくい・ゆり）
２００４年12月９日生まれ。大阪府・同志社香里高校出身。得意分野は焼き菓子。心理学部２年。



福井はプレーヤーとしてラクロス漬けの生活を送っている。身体的にも精神的にも疲労がたまる日々のリフレッシュとして取り組んでいるのがお菓子作り。趣味を見つけようと高校入学前から本格的に始め、より良いレシピを生み出すために試行錯誤する毎日を過ごしてきた。現在はケーキやグミ、マカロンなど幅広い種類の作り方を習得し、豊富なレパートリーを持っている。

出来上がったものはどれも味はもちろんのこと、華やかなデコレーションが目を引く。練習に差し入れとして持っていくと、もらった部員は「かわいい」「気分が上がる」と絶賛。また、新人戦では焼き菓子の詰め合わせを配った。スノーボールにドーナツ、さらにジャムクッキー。ピンクを基調とした色合いがかわいらしく、自然と胸がときめく。緊張感が漂う会場の中、一人一人の硬くなった表情を和らげチームに活気をもたらした。まさに疲れを吹き飛ばす癒やしの存在だ。

「渡す人たちの喜ぶ顔を想像しながら作業する時間が好き」。今後も周りを笑顔にするべくレシピを考案し、さまざまなジャンルに挑戦する。

栄養管理の探求家 バスケットボール部男子

スクランブルエッグ



- 卵
- ウインナー
- チーズ
- ケチャップ

神田航汰（かんだ・こうた）
２００２年５月15日生まれ。新潟県・帝京長岡高校出身。得意料理はタラのホイル焼き。スポーツ健康科学部４年。



持久力や瞬発力を併せ持つ強いフィジカルが求められるバスケットボール。攻撃の起点となりゲームをコントロールする神田は、プレーにとどまらず食事面でも徹底的に管理を行う。接触プレーが多いバスケットボールにおいては、当たり負けしないことが重要だ。そのため食事量を増やすだけでなく、五大栄養素の摂取量を意識している。

例えば、１食当たりのタンパク質は40㌘を目安とし、炭水化物は２００～２５０㌘に制限。また、余分な脂質をできるだけ避け、ビタミンとミネラルはサプリメントや野菜からの積極的な摂取を目指す。一押し料理はスクランブルエッグ。効率良くエネルギーを補給できるメニューだ。

健康的な食生活によって体つきは良くなり、体調面も良好。万全のコンディションで大学最後のリーグ戦に臨んでいる。「チームの流れを変えるようなプレーをしたい」。徹底した食事管理で養った屈強なパワーと、得意とする泥くさいプレーで汚れ役も受けて立つ。４年間で作り上げた肉体を生かし有終の美を飾れ。

レイアウト　中嶋　理博

同志社校友会
Doshisha Alumni Association
同志社校友会事務局
〒602-0867　京都市上京区寺町通丸太町上る松蔭町140-4
MAIL ： info00@doshisha-alumni.org　電話：075-251-4393
卒業生と繋がる
学生と繋がる
学生を支える

永久不滅の絆

サッカー部



熱田修平

（あつた・しゅうへい）
2002年5月8日生まれ。神奈川県・桐光学園高校出身。今年度、副将を務める。180㌢・75㌔。政策学部4年。

國嶋康介

（くにしま・こうすけ）
2002年4月14日生まれ。神奈川県・桐光学園高校出身。今年度、主将を務める。180㌢・71㌔。法学部4年。


熱田


國嶋

「俺たちずっと一緒だよな」（熱田）。中学1年時から共に過ごし、今年で出会って10年目となる彼らは主将と副将として部を支えている。

中学時代、國嶋はクラブチーム、熱田は学校のサッカー部に所属していた。初めて同じチームでプレーしたのは高校生の時。毎日の過酷な練習にも切磋琢磨（せっさたくま）しながら精一杯取り組んだ。特に國嶋は走り込みがある日の授業を睡眠時間に充て、体力を温存していたこともしばしば。それでも文武両道を目指し、放課後は教室に残り勉強にいそしんだ。

互いの第一印象をすぐには思い出せないほど、旧知の仲となった2人。熱田の尊敬するところとして國嶋は「助けてほしいときに頼りになる安心感」を挙げる。これだけの厚い信頼があったからこそ、迷わず熱田を副将に選んだ。遠慮せずに言いたいことは何でも言える関係。長い時間を共有しているがために、相手の性格を考え補い合うことができている。

卒業後は、どちらも東京での就職が決まった。住む家を一緒に探し、社会人になっても週に1度会う約束を立てている。これから先何年たってもこの深いつながりが切れることはない。

共闘誓い駆け上がる

ソフトテニス部


清水

塚本

塚本星弥

（つかもと・せいや）
2006年1月2日生まれ。愛知県・岡崎城西高校出身。ポジションは後衛。163㌢・51㌔。スポーツ健康科学部1年。

清水駿

（しみず・しゅん）
2005年8月1日生まれ。大阪府・上宮高校出身。ポジションは後衛。170㌢・55㌔。商学部1年。

出会いは小学5年生の頃にさかのぼる。大会や練習試合で顔を合わせるうちに仲を深めた。「小5からの仲なので何を考えているか大体分かる」（塚本）。今では互いに「親友」と呼び、認め合う存在だ。

清水と塚本は既に全国に名をはせる。高校までは別々の場所でプレーしながら、1番のライバルとしてしのぎを削った。大学進学にあたっては、地元関西に残る決断をした清水が「僕たちの学年で日本一うまい選手」とリスペクトする塚本を同志社に勧誘。自分の力を試したかった塚本はこれを快諾した。「（清水が）チームメートになり、とても心強い」（塚本）。共に団体戦で活躍し、春季リーグ戦優勝や西日本インカレでの3位入賞に大きく貢献した。

競い合う関係ではあるが、プライベートは常にニコイチ。「同じチームになって楽しいことしかない」（清水）。週に4、5回の頻度で食事に出かけては、よくお好み焼きを食べている。また、清水の家で一緒にホラー映画を見ることが最近のブームだ。

「他を圧倒する選手になる」（塚本）。関東の大学が覇権を握る中、目標はインカレ優勝。心許せる相棒と東高西低の勢力図を塗り替える。

最強バディ、ここにあり！








～あなたと一緒なら悲しみは半分に喜びは2倍に～

「出会ってくれてありがとう」。自然と感謝の言葉があふれる。全力で青春を謳歌（おうか）し、深く心を打ち解けた。どんな時もそばにいて寄り添ってくれる一番の理解者。体育会で活躍する最強の2人組を特集した。

馬術部



泉和華子

（いずみ・わかこ）
2003年5月29日生まれ。京都教育大附属高校出身。164㌢。社会学部3年。

クアドリフォリオ

2009年6月29日生まれ。オランダ出身。セン馬。2022年入厩。




青い飾紐が結ぶ人馬

動物と競技を行う唯一の種目、馬術。「365日ずっと一緒にいる家族以上の存在で、切っても切れない関係」と自馬のことを誇らしげに語る。

高校1年生の冬、通っていた乗馬クラブの先生がオランダへ出向き、レベルアップのために連れてきたのがクアドリフォリオ。「感動して自然と涙があふれてきた」と最初に出会った時から不思議な縁を感じていた。しかし、パートナー歴1年目は失権続き。それでも「慣れていないことを乗り越えるために、一緒にいる時間を長くした」と愛情を注ぎ続けた。2020年の全日本ジュニア障害馬術大会では瀬戸際で出場権を獲得。「お世話していたのがそこで報われたと感じた」。予選の走行を初めて減点0で回り切り、愛馬との絆をより一層深めた。

大学では毎日世話をしながら、馬第一の生活を送っている。2022年の関西学生障害馬術大会では、ルーキーながら個人戦初V。2年時の全関西学生馬術大会でも優勝を飾るなど、華々しい成績を残してきた。「ウイニングランで先頭を走って、クアドリが一番輝ける試合をしたい」。次に目指すは11月に行われる全日本学生馬術大会での頂。ブルーリボンをきらめかせ、泉・クアドリフォリオの名をとどろかせろ。

硬式野球部



渡邉凌太郎

（わたなべ・りょうたろう）
2002年8月13日生まれ。福岡大大濠高校出身。今年度、体育会本部委員長を務める。164㌢・61㌔。政策学部4年。

渡邉俊太郎

（わたなべ・しゅんたろう）
2004年11月26日生まれ。福岡大大濠高校出身。ポジションは内野手。右投げ左打ち。176㌢・72㌔。政策学部2年。


渡邉凌


渡邉俊

飽くなき向上心で高め合う

福岡から上洛した渡邉兄弟は、活躍する舞台が変わってもなお刺激を与え続けるライバルだ。4人兄妹の真ん中に生まれた兄の凌太郎と弟の俊太郎。彼らの経歴はきれいにそろっている。野球をプレーする兄に憧れ競技を始めた俊太郎は、高校、大学まで凌太郎の背中を追い続けてきた。「お兄ちゃんに負けたくないという気持ちが人生の軸にある」（渡邉俊）。進路選択のきっかけに過ぎなかった兄の姿は、いつしか乗り越えるべき目標に変化していった。

高校時代に強豪福岡大大濠でレギュラーを獲得した凌太郎は、同志社進学後に体育会本部に入ることを決断。「消極的な自分を変えるためにチャレンジしたかった」（渡邉凌）と心機一転、新たな環境に足を踏み入れた。現在は第一線から退いたものの、野球に対する情熱は消えうせぬままだ。「自分にない野球スキルを持っているので正直うらやましい」（渡邉凌）。昨秋、今春ともに同立戦に出場し飛躍が期待される俊太郎に、自身が達成できなかった夢を託した。

まもなく凌太郎は卒業を迎え、2人は再び別々の道を歩む。「最後まで委員長をやり抜いた姿が見たい」（渡邉俊）。これまで紡いできた兄弟間の思いが、未来を後押しする。

レイアウト　藤田　桃江

強豪打ち破り下馬評覆した 同志社アトム 投打で圧倒 ソフトボール女子 堂々の準V



決勝 対中京大戦 スターティングラインアップ



◆ソフトボール部女子◆8月3～5日◆第56回西日本大学女子ソフトボール選手権大会◆於・山崎運動公園くまのスタジアム（三重県）他◆創部史上初の偉業を成し遂げた。悔しさを味わった春を乗り越え、万全の状態で臨んだ今大会。初戦を10―0で制し着々と勝ち進むと、準決勝でも優勝候補相手に大勝を収める。決勝で中京大に敗れたものの、大会を通して個々の実力の高さを見せつけた。今年は例年と異なり、鈴木つをはじめとする4年生は秋季リーグ戦をもって引退となる。全てを懸けて挑む最終章。球場で拳を突き上げる彼女たちの姿が見たい。

後世に名残す

優勝を見据えていたリーグ戦で4位にとどまり、不完全燃焼に終わった春。全日本インカレの出場権を得たものの、思うような結果を残すことはできなかった。約2カ月後、全日本総合近畿予選で本戦への切符を勝ち取り、前例のない快挙を遂げる。「新たな歴史を刻めたと考えると素直にうれしい」（鈴木つ）。それでも慢心することなく練習に打ち込み、盤石の布陣で挑んだ今大会。破竹の勢いでトーナメントを勝ち上がり、再び女子部の歴史を塗り替えた。

怒涛の快進撃

「西日本インカレ、全日本インカレはトーナメント形式で負けることができないので、1試合にどれだけこだわるかが重要になる」（鈴木つ）。負ければ敗退の一発勝負に視線が集まる中、大事な初戦を迎えた。初回から8点を奪い取り、安田女大に10―0でコールド勝ち。大量得点で圧勝し、打撃陣の好調ぶりを感じさせた。

3回戦となった対岐阜聖徳学園大戦。中盤まで実力伯仲の戦いとなるも、5回表に窮地に立たされた。二塁打で出塁を許し、さらに四球で走者をためる。雷鳴の影響で試合が一時中断したが、再開後は鈴木巴が落ち着いた投球を披露。「最後まで集中力を切らさず、諦めずに試合ができた」（前納）とイレギュラーな状況にも冷静に対応し、5―0で勝ち切った。

最終日は環太平洋大、中京大と対峙（たいじ）した。準決勝では初回から鈴木つが三遊間を抜ける安打で出塁。続く江濱が内野安打を放ち好機を演出すると、相手の失策に乗じて2点を得る。その後も徐々に点差を拡大し優勝候補を引き離すと、最終回に小笠原の適時打でさらに1点を追加。5点差をつけて大勝した。

強豪中京大との決勝では2回表に先制点を与え、早くも追いかける展開となった。この回裏に小笠原が塁に出るも後続を断ち切られ、0―1のまま最終回へ。「相手の勝負強さ、打撃のレベルが自分たちと違った」（鈴木つ）。反撃の糸口をつかむことができず、0―3で悔しい敗戦となった。

終章の幕開け

「全員が打って守ることができた」（生駒）。頂にたどり着くことはできなかったが、投打の総合力を発揮し選手層の厚さを示した。

約1カ月前、例年であれば最上級生にとって集大成の場となる全日本インカレが開催された。しかし、2回戦で日本文理大に無念の敗北。新体制発足時から追い求めてきたベスト4進出はかなわなかった。だが、まだ鈴木つ組の歩みが止まったわけではない。4年生は秋季リーグ戦までプレーすることを決断し、チームとして目指すべき場所を再確認。真の最終章が幕を開けた。彼女たちのドラマはどのような結末を描くのか。なんとしてでも目標を達成し、新たな景色を見せてくれるはずだ。

【小野理紗】



◆妹尾美郷（せのお・みさと）
2004年9月16日生まれ。広島県・清水ヶ丘高校出身。ポジションは左翼手。164㌢。スポーツ健康科学部2年。

喜ぶ左・妹尾、江濱【切り込み写真】
左・円陣を組む選手たち
右・ポーズを取る妹尾
（撮影・岡本和香）

◆決勝トーナメント◆

環太平洋大			
日本福祉大	1		
同志社	6		
岐阜聖徳学園大		0	
東海学園大		3	
中国学園大	0		
美作大	2		
中京大			

全日本総合の出場権獲得

◆6月22日◆第76回全日本総合女子ソフトボール選手権大会近畿予選会◆於・みなと堺グリーンひろば（大阪府）

全日本総合への切符を懸けて行われた近畿予選。大阪青山大を破り、出場権を獲得した。

対武庫川女大戦は最後まで勝負の行方が分からない展開となった。7回終了時点で決着がつかず、タイブレークにもつれ込む。11回裏、相手の隙を見逃さず勝ち越し点を奪い接戦を制した。続く対大阪青山大戦も張り詰めた空気の中、6回に得点に成功。1点差で白星をつかんだ。「誰かがミスをしてもみんなでカバーした」（鈴木つ）。拮抗（きっこう）した試合の中でチームワークが輝いた。

女子ソフトボール部に新たな歴史を刻んだ。「普段から意識していることは、堂々とプレーすること」（鈴木つ）。これまでの徹底した練習が自信のある動きにつながった。絶え間ない努力でさらに強いチームに成長する。

力発揮し敢闘賞

江濱が実力を発揮し、敢闘賞を受賞した。まさにアタックオールアラウンド。自身が競技を始めた時から大事にしている言葉を体現した。

対鈴鹿大戦では1回裏に左中間を破る三塁打を記録。「1番バッターの（鈴木）つかささんからいろいろ教えてもらえたことが心のよりどころになった」。関西リーグと違い選手の情報量が少ない中での一戦。早い段階で主導権を握れるかが鍵となった。迎えた3回裏、左方向に放った痛烈な一打はランニングホームランに。大車輪の活躍に、大きな歓声が上がった。

対環太平洋大戦では、安打で塁に出た鈴木つのつくった好機を拡大。先制点獲得に貢献し、準優勝の立役者となった。

入部当初から一目置かれる存在の江濱。「自分たちの打撃でピッチャーを支えたい」と主力選手として成長してきた。高みを目指し、努力し続ける彼女から目が離せない。

レイアウト　西川　有人

ヘッドライン
過去紙面掲載
スマホ対応
同志社スポーツアトム official web site 編集局
ホームページはこちら
¥7,000から
広告承ります
〒602-8580
京都市上京区上立売新町西入ル西大路町61-1
同志社スポーツアトム編集局
次回予告 10/18発行予定！
硬式野球号外
ぜひお手に取ってご覧ください！
三菱地所レジデンス
住宅総合デベロッパーとして
チームで達成したい！
アイディアを形にしたい！
【26卒 就活生】
▼MYPAGE ENTRY▼